



サーバユーティリティ

-
- [リモート サーバーへのテクニカル サポート データのエクスポート \(1 ページ\)](#)
- [CIMC の再起動 \(3 ページ\)](#)
- [CIMC の出荷時デフォルトへのリセット \(4 ページ\)](#)
- [CIMC 設定のエクスポートとインポート \(5 ページ\)](#)

リモート サーバーへのテクニカル サポート データのエクスポート

このタスクは、Cisco Technical Assistance Center (TAC) から要求された場合に実行します。このユーティリティは、TACが技術上の問題をトラブルシューティングおよび解決する際に役立つ設定情報、ログ、および診断データが含まれる要約レポートを作成します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope cimc	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # scope tech-support	tech-support コマンド モードになります。
ステップ 3	Server /cimc/tech-support # set remote-ip ip-address	サポート データ ファイルを保存する必要があるリモート サーバーの IP アドレスを指定します。
ステップ 4	Server /cimc/tech-support # set remote-path path/filename	サーバー上に保存するサポート データ ファイルの名前を指定します。この名前を入力するときは、ファイルの相対パスを、サーバー ツリーの最上位から目的の場所まで含めてください。
ステップ 5	Server /cimc/tech-support # set remote-protocol protocol-type	リモート サーバーのプロトコルを指定します。リモート サーバーのプロトコルは次のいずれかになります。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • tftp • ftp • sftp • scp • http
ステップ 6	Server /cimc/tech-support # set remote-username <i>username</i>	<p>(任意) システムがリモートサーバーへのログインに使用する必要のあるユーザー名。</p> <p>(注) ユーザー名は、リモートサーバーがTFTPまたはHTTPの場合は適用されません。</p>
ステップ 7	Server /cimc/tech-support # set remote-password <i>password</i>	<p>(任意) リモートユーザー名のパスワード。</p> <p>(注) パスワードは、リモートサーバーがTFTPまたはHTTPの場合は適用されません。</p>
ステップ 8	Server /cimc/tech-support # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 9	Server /cimc/tech-support # start	リモートサーバーへのサポートデータファイルの転送を開始します。
ステップ 10	Server /cimc/tech-support # show detail	ファイルのアップロードのステータスを表示します。
ステップ 11	Server /cimc/tech-support # cancel	(任意) リモートサーバーへのサポートデータファイルの転送を取り消します。

例

次に、サポートデータファイルを作成し、そのファイルをTFTPサーバーに転送する例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # scope tech-support
Server /cimc/tech-support # set remote-ip 10.20.30.41
Server /cimc/tech-support *# set remote-path /user/user1/supportfile
Server /cimc/tech-support *# set remote-protocol tftp
Server /cimc/tech-support *# commit
Server /cimc/tech-support # start
Tech Support upload started.
Server /cimc/tech-support # show detail
Tech Support:
  Server Address: 10.20.30.41
```

```

Path: /user/user1/supportfile Protocol: tftp
Username:
Password: *****
Progress(%): 0
Status: COLLECTING

Server /cimc/tech-support # show detail
Tech Support:
  Server Address: 10.20.30.41
  Path: /user/user1/supportfile
  Protocol: tftp
  Username:
  Password: *****
  Progress(%): 85
  Status: COLLECTING

Server /cimc/tech-support # show detail
Tech Support:
  Server Address: 10.20.30.41
  Path: /user/user1/supportfile
  Protocol: tftp
  Username:
  Password: *****
  Progress(%): 100
  Status: COMPLETED

```

次のタスク

生成されたレポート ファイルを Cisco TAC に提供します。

CIMC の再起動

現在実行されているファームウェアで問題が発生した場合など、非常に珍しいケースですが、サーバーのトラブルシューティング時に、CIMC の再起動が必要になることがあります。この手順は、通常のサーバーメンテナンスには含まれません。CIMC を再起動した後にログオフすると、CIMC は数分間使用できません。



- (注) サーバーが電源投入時自己診断テスト (POST) を実行しているとき、または Extensible Firmware Interface (EFI) シェルを操作しているときに CIMC を再起動すると、サーバーの電源は、CIMC の再起動が完了するまでオフになります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope cimc	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # reboot	確認のプロンプトが表示されたら、CIMC を再起動します。

例

次に、CIMC を再起動する例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # reboot
This operation will reboot the CIMC.
Continue?[y|N]y
```

CIMC の出荷時デフォルトへのリセット

現在実行されているファームウェアで問題が発生した場合など、非常に珍しいケースですが、サーバーのトラブルシューティング時に、CIMC の出荷時デフォルトへのリセットが必要になることがあります。これを行うと、ユーザーが設定可能なすべての設定がリセットされます。

この手順は、通常のサーバーメンテナンスには含まれません。CIMC をリセットした後は、ログオフしてから再びログインする必要があります。また、接続が失われ、ネットワーク設定を再び指定する必要がある場合もあります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope cimc	CIMC コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # factory-default	確認プロンプトの後に、CIMC が出荷時デフォルトにリセットされます。

CIMC の出荷時デフォルトには、次の条件が含まれます。

- CIMC CLI へのアクセス用に、SSH がイネーブルになっている。
- CIMC GUI へのアクセス用に、HTTPS がイネーブルになっている。
- 単一ユーザーアカウントが存在している（ユーザー名は **admin**、パスワードは **password** です）。
- 管理ポートで DHCP がイネーブルになっている。
- ブート順が CDROM、PXE（LoM を使用）、FDD、HDD になっている。
- KVM と vMedia がイネーブルになっている。
- USB がイネーブルになっている。
- SoL がディセーブルになっている。

例

次に、CIMC を出荷時デフォルトにリセットする例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # factory-default
This operation will reset the CIMC configuration to factory default.
All your configuration will be lost.
Continue?[y|N]
```

CIMC 設定のエクスポートとインポート

CIMC 設定のエクスポートとインポート

CIMC 設定のバックアップを実行するには、システム設定のスナップショットを作成し、生成された CIMC 設定ファイルをネットワーク上の場所にエクスポートできます。エクスポート操作で保存されるのは、管理プレーンからの情報だけです。サーバー上のデータはバックアップされません。ユーザーアカウントやサーバー証明書など、機密情報の設定はエクスポートされません。

エクスポートされた CIMC 設定ファイルは、同じシステムで復元したり、別の CIMC システムにインポートしたりできます。ただし、インポートするシステムのソフトウェアバージョンとエクスポートするシステムのソフトウェアバージョンが同じであるか、両者の設定に互換性があることが前提となります。設定ファイルを設定テンプレートとして他のシステムにインポートする場合は、IP アドレスやホスト名などシステム固有の設定を変更する必要があります。インポート操作によって情報が変更されるのは、管理プレーンだけです。

CIMC 設定ファイルは XML テキスト ファイルで、その構造と要素は CIMC コマンドモードに対応しています。

エクスポートまたはインポート操作を実行する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- エクスポートまたはインポートは、システムがアップ状態で、稼働しているときに実行できます。エクスポート操作によるサーバまたはネットワークトラフィックへの影響はありませんが、インポート操作によって IP アドレスなどが変更されると、トラフィックが中断されたりサーバがリブートされたりすることがあります。
- エクスポートとインポートを同時に実行することはできません。

CIMC 設定のエクスポート



- (注) セキュリティ上の理由から、この操作でユーザーアカウントやサーバー証明書をエクスポートしないでください。

始める前に

- バックアップ TFTP サーバーの IP アドレスを取得します。
- コンフィギュレーションファイルのインポート時に SNMP の設定情報を復元する場合は、コンフィギュレーションファイルを作成する前に、このサーバーで SNMP がイネーブルになっていることを確認します。コンフィギュレーションをエクスポートするときに SNMP がディセーブルになっていると、CIMC は、ファイルのインポート時に SNMP の値を適用しません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope cimc	CIMC コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # scope import-export	import-export コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /cimc/import-export # export-config tftp-ip-address path-and-filename	バックアップ操作を開始します。コンフィギュレーションファイルは、指定した IP アドレスの TFTP サーバで指定されたパスとファイル名で保存されます。

エクスポート操作が正常に完了したかどうかを確認するには、**show detail** コマンドを使用します。操作を中止するには、CTRL+C を入力します。

例

次に、CIMC コンフィギュレーションファイルをバックアップする例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # scope import-export
Server /cimc/import-export # export-config 192.0.2.34 /ucs/backups/cimc5.xml
Export config started. Please check the status using "show detail".
Server /cimc/import-export # show detail
Import Export: Operation: EXPORT Status: COMPLETED
Error Code: 100 (No Error) Diagnostic Message: NONE

Server /cimc/import-export #
```

CIMC 設定のインポート

始める前に

コンフィギュレーションファイルのインポート時に SNMP 設定情報を復元する場合は、インポートを行う前にこのサーバーで SNMP がディセーブルになっていることを確認します。インポート時に SNMP がイネーブルになっていると、CIMC は現在の値をコンフィギュレーションファイルに保存されている値で上書きしません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope cimc	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # scope import-export	import-export コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /cimc/import-export # import-config <i>tftp-ip-address path-and-filename</i>	インポート操作を開始します。指定した IP アドレスの TFTP サーバーで指定されたパスとファイル名で、コンフィギュレーションファイルはインポートされます。

インポート操作が正常に完了したかどうかを確認するには、**show detail** コマンドを使用します。操作を中止するには、CTRL+C を入力します。

例

次に、CIMC コンフィギュレーションをインポートする方法を示します。

```
Server /cimc/import-export # import-config tftp 192.0.2.34 /ucs/backups/cimc5.xml
Passphrase:
Import config started. Please check the status using "show detail".
```

```
Server /cimc/import-export # show detail
Import Export:
Operation: IMPORT
Status: TRANSFERING
Error Code: 0 (No Error)
Diagnostic Message: NONE
Server /cimc/import-export #
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。